

衆議院による被災地支援取組時ぶら下がり会見録
(平成30年3月5日(月) 12:22~12:25
於) 衆議院第二議員会館地下1階議員会館食堂前)

1. 発言要旨

(大島衆議院議長) 発災から7年目を迎えておりますが、福島は復旧、そして復興への今ステップに入っておりますけれども、とりわけ東京電力福島第一原子力発電所の事故に対する復旧・復興はむしろこれからだと思います。被災された皆様方のお気持ちをしっかりと我々は受け止めながら、議会としても、この復興に力を尽くしていかなきゃならん。

今日、いろいろな特産物を拝見しました。

発災のときの柿、福島の最も有名なあんぽ柿はもう全滅しました。見ていて、本当に柿の木に、おいしそうなのが生っているんだけども取るわけにはいかないと。そのときに、農家の方々のお気持ちを考えると、何ともいえない気持ちに我々はなったんですが、それが徐々に桃も柿もそういう風にとれて、お米もそうですが、風評被害というものに対して頑張っていたきたいし、中国や韓国、台湾の水産物、今、古屋委員長が台湾の方にも働きかけていただいて、そういうことで、一つ一つ経済の生業(なりわい)の問題も進めていかなきゃなりません。よくここまで頑張っ

てこられたなと思っているんです。

繰り返しますが、あの東京電力福島第一原子力発電所のこれからの復旧は、本当に一步一步前進していかなきゃならん、心を引き締めてやっていかなきゃいかん、こう改めて思いました。

(吉野復興大臣) 今日は衆議院の議長、そして議運の委員長さん、本当にありがとうございます。

被災3県、今頑張っているんですけれども、こうやって院として被災地の物を売ってくれる、被災地の物を食べてくれる、こういう企画は本当に感謝申し上げます。

これからも皆さんの心を、元気を頂いて、頑張っていくこと、このように考えております。

今日は本当にありがとうございました。

(古屋議院運営委員会委員長) もう7年の歳月が経ちましたけれども、やはり私たちは風評被害によって、科学的に安全が立証されているにもかかわらず、特に外国に対して、なかなか被災地の産物が輸出できない、これは非常に私は問題があると見ておりまして、今議長から台湾のお話がありましたけれども、私は日本と台湾との議員連盟の会長をしておりますが、今働きかけをさせていただいております。

やはりこうやって、本当に皆さんが必死に頑張って作っていただいているすばらしい産品を、国内はもとより、世界にしっかり私たちは安全な食品として売り込んでいくことが極めて重要だ、そんな取組をしているということを御報告を申し上げたいと思います。

是非、被災地の皆さん、頑張ってください。

(以 上)